（別添資料１）

事業所名　指定通所支援ミネルヴァ

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日　2025 年　3 月　25 日

法人（事業所）理念	・子どもたちの成長や自立を支えます。 ・子どもたちと地域をつなぎ社会で活躍できるよう支援します。 ・より良い福祉のために常に学び、考え、協力し、すぐに行動します。 ・笑顔とあたたかさを大事にします。			
支援方針	1. 対人関係の基礎を育む支援 2. 自己表現や自己理解を深める支援 3. 問題解決スキルを高める支援			
営業時間	9 時　0 分から　18 時　0 分まで		送迎実施の有無	なし
	支　援　内　容			
本人支援	健康・生活	・心身の健康状態の把握と基本的生活習慣を身につける。（検温、手洗い、手指消毒、感染症予防の習慣） ・基本的生活スキルの獲得。（挨拶、片付け、身支度の習慣） ・個室やパーティションを活用するなど個々のニーズに応じた取り組みやすい環境の提供。（構造化、カームダウン） ・発達段階に応じた情報の提供。（スケジュール、タイムタイマーなどの視覚支援） ・生活リズムの振り返り。		
	運動・感覚	・運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、ビジョントレーニングなど様々な体の感覚に対する支援。 ・手先の運動や製作などを通して巧緻性を高める。 ・個々の感覚（敏感さ、鈍感さ）に応じた活動や環境の設定。 ・ビジョントレーニング、運筆や筆圧のコントロール、手と目の協応動作に対する支援。 ・体の使い方、危機回避への意識を高める。		
	認知・行動	・日常生活の中でのやり遂げる力、プランニングする力を養う。（実行機能） ・道具の操作方法や正しい使い方を伝える。 ・物の機能、属性、大きさ、重さ、数、形、色、文字などの概念形成や適切に形を捉える力を養う。 ・自分の得意不得意、特性を理解し、困った時の対処法や安心して過ごせる環境をつくるための支援。（自己理解・行動の調整） ・自己選択、自己決定する力を育む。		
	言語 コミュニケーション	・音韻意識を育てる。 ・口腔体操を行い口腔機能や発声機能を促す。 ・身体運動を用いて発声に繋げる。 ・要求・拒否・報告・連絡・相談などを場面や相手の状況に応じたやりとりを促す。 ・発達段階に応じたコミュニケーションの手段を選択、活用する力を養う。 ・自分の考えや感情に気づき会話を通して発信する力を養う。		
	人間関係 社会性	・気持ちの種類を知り、コントロールの方法を知る。（気持ちの話） ・小集団活動や交流活動をとおして適切な人間関係の形成を促す。 ・役割やルール、順番、マナー、相手への配慮を学び、ソーシャルスキルの習得を促す支援。 ・環境に対する安心感、人に対する信頼感、自己肯定感を育む支援。 ・個々の好きなものや発達段階に沿った遊びを提供することで、遊びを広げる。 ・困った場面で相談したり、妥協する力を養うための支援。 ・負けた時、失敗した時、思い通りにいかない時には子どものペースに合わせて関わりながら、切り替える力を育む支援。 ・グループ活動や交流活動をとおして適切な人間関係の形成を促す。 ・余暇を充実するための支援。		
家族支援	支援で使用したスケジュールや内容を伝え、手立ての共通理解を図り情報を共有。発達段階ごとの支援方法などの情報を提供し、成長に向けた支援や家庭での支援環境についての助言。	移行支援	切れ目のない支援を継続できるよう、移行先に事業所での支援経過や支援内容、支援方法等の情報を共有。	
地域支援・地域連携	・保育、教育、福祉、医療、相談支援事業所等の関係機関との連携を行う。 ・学校や併用利用先との情報共有。	職員の質の向上	・定期的なケース会議、職員会議の実施。 ・職員の各種勉強会や研修への参加。	
主な行事等	・長期休業中のイベント（春、夏、秋、冬、ハロウィン）・夏祭り週間 ・保護者学習会（ペアレントトレーニング、スケジュールの作成、座談会） ・各種避難訓練			

（別添資料１）

事業所名　指定通所支援ミネルヴァ

支援プログラム（児童発達支援）

作成日　2025 年　3 月　25 日

法人（事業所）理念	・子どもたちの成長や自立を支えます。 ・子どもたちと地域をつなぎ社会で活躍できるよう支援します。 ・より良い福祉のために常に学び、考え、協力し、すぐに行動します。 ・笑顔とあたたかさを大事にします。			
支援方針	1. 対人関係の基礎を育む支援 2. 自己表現や自己理解を深める支援 3. 問題解決スキルを高める支援			
営業時間	9 時　0 分から　18 時　0 分まで		送迎実施の有無	なし
	支　援　内　容			
本人支援	健康・生活	・心身の健康状態の把握と基本的生活習慣を身につける。（検温、手洗い、手指消毒、感染症予防の習慣） ・基本的生活スキルの獲得。（挨拶、片付け、身支度の習慣） ・個室やパーティションを活用するなど個々のニーズに応じた取り組みやすい環境の提供。（構造化、カームダウン） ・発達段階に応じた情報の提供。（スケジュール、タイムタイマー、絵カード、トークンなどの視覚支援） ・排泄のタイミングを促す。		
	運動・感覚	・運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感など様々な体の感覚を広げる。 ・手先の運動や製作などをとおして巧緻性を高める。 ・個々の感覚（敏感さ、鈍感さ）に応じた活動や環境の設定。 ・ビジョントレーニング、運筆や筆圧のコントロール、手と目の協応動作に対する支援。 ・体の使い方、危機回避への意識を高める。		
	認知・行動	・日常生活の中でのやり遂げる力を養う。（実行機能） ・道具の操作方法や正しい使い方を伝える。 ・物の機能、属性、大きさ、重さ、数、形、色、文字などの概念形成や適切に形を捉える力を養う。		
	言語 コミュニケーション	・音韻意識を育てる。 ・文字と音との一致、平仮名をなぞる、単語を読むなど楽しみながら読み書きへの関心を高める。 ・口腔体操を行い口腔機能や発声機能を促す。 ・身体運動を用いて発声に繋げる。 ・要求・拒否・報告・連絡・相談などについて場面や相手の状況に応じたやりとりを促す。 ・発達段階に応じたコミュニケーションの手段を選択、活用する力を養う。 ・自分の考えや感情に気づき会話を通して発信する力を養う。		
	人間関係 社会性	・負けた時、失敗した時、思い通りにいかない時には子どものペースに合わせて関わりながら、切り替える力を育む支援。 ・小集団活動や交流活動をとおして適切な人間関係の形成を促す。 ・気持ちの種類を知り、コントロールするための方法を知る。（気持ちの話） ・役割やルール、順番、マナー、相手への配慮を学び、ソーシャルスキルの習得を促す支援。 ・環境に対する安心感、人に対する信頼感、自己肯定感を育む。 ・個々の好きなものや発達段階に沿った遊びを提供することで、遊びを広げる。 ・困った場面で相談したり、妥協する力を養う。		
家族支援	支援で使用したスケジュールや内容を伝え、手立ての共通理解を図り情報を共有。発達段階ごとの支援方法などの情報を提供し、成長に向けた支援や家庭での支援環境についての助言。	移行支援	切れ目のない支援を継続できるよう、移行先に事業所での支援経過や支援内容、支援方法等の情報を共有。	
地域支援・地域連携	・保育、教育、福祉、医療、相談支援事業所等の関係機関との連携を行う。 ・学校や併用利用先との情報共有。	職員の質の向上	・定期的なケース会議、職員会議の実施。 ・職員の各種勉強会や研修への参加。	
主な行事等	・夏祭り週間 ・保護者学習会（就学前勉強会、ペアレントトレーニング、スケジュールの作成、座談会） ・各種避難訓練			